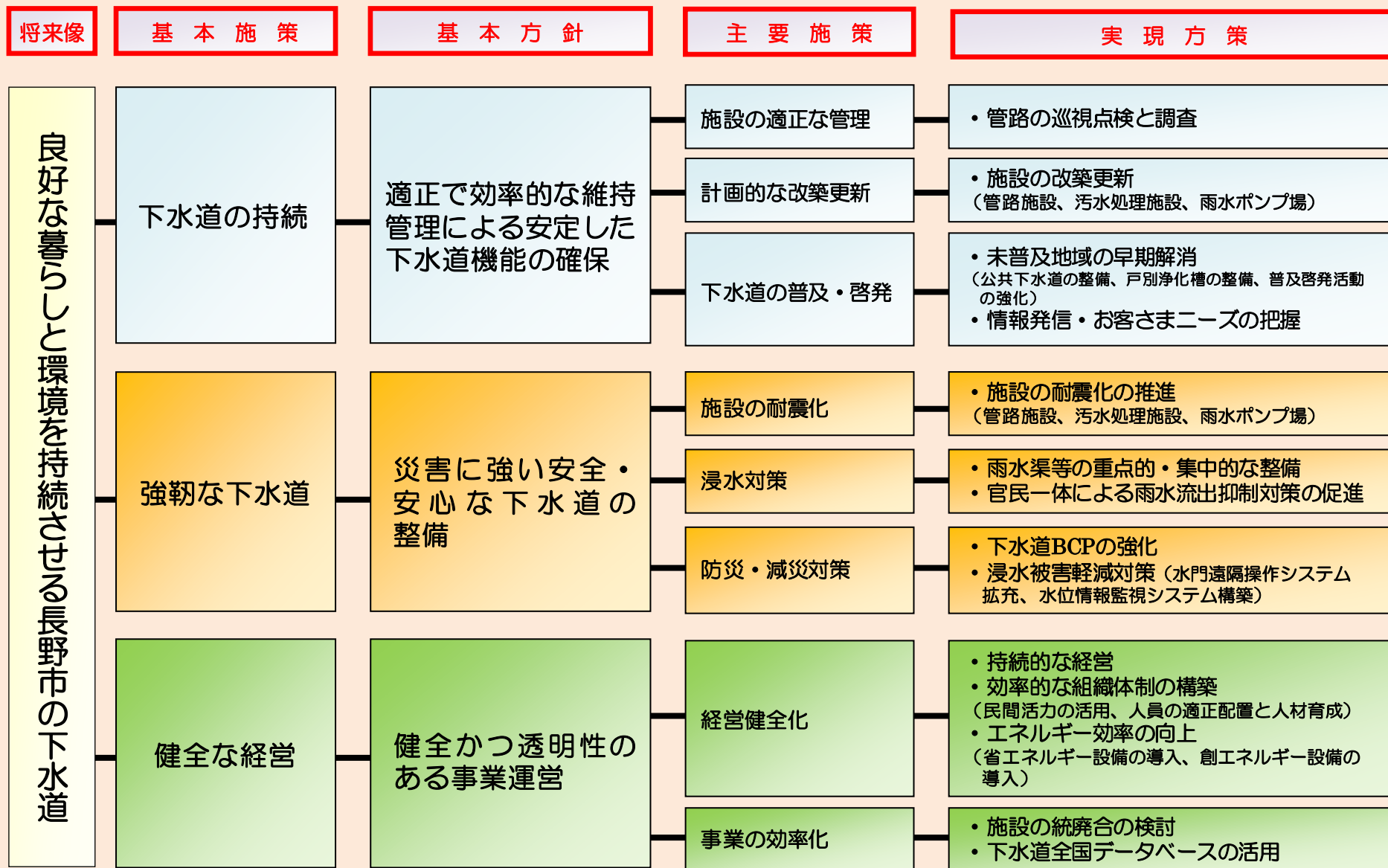


長野市下水道ビジョン・経営戦略の改訂方針について

(ビジョン・経営戦略の将来像と基本施策について)

1 長野市下水道10年ビジョン（平成29年改訂版）の実施状況と評価



基本施策：下水道の持続 基本方針：適正で効率的な維持管理による安定した下水道機能の確保

主要施策	実現方策	業務指標	目標値	実施状況
施設の適正な管理	管路の巡視点検と調査	巡視点検延長	2,354km/7年	2,390km
		吐出し口調査	334箇所/5年	398箇所

【実施状況・評価】

- ・管路の巡視点検は7年に1度の頻度で全延長を実施し、目標を達成しています。
- ・圧送管の吐出し口などの腐食しやすい環境にある398箇所について、令和3年度に調査を実施し、目標を達成しています。

主要施策	実現方策	業務指標	目標値	実施状況
計画的な改築更新	施設の改築更新	管路施設:改築更新率	100%(5年)	72%
		汚水処理施設: 施設改築更新計画の策定	策定(H31)	策定(R5)
		雨水ポンプ場: 施設改築更新計画の策定	策定(H31)	策定(R5)

【実施状況・評価】

- ・令和4年度から8年度の5年間の計画延長24.66kmに対し、令和4年度から7年度までの実施延長は17.66km、約72%の改築更新率となっています。令和8年度末の予想改築更新率は約91%を見込んでいます。
- ・汚水処理施設、雨水ポンプ場の改築更新計画は、令和4年度末に第2期ストックマネジメント計画として令和5年度から令和9年度まで5年間の計画を策定しました。

主要施策	実現方策	業務指標	目標値	実施状況
下水道の普及・啓発	未普及地域の早期解消	公共下水道：人口普及率	98.0%(H38)	98.3%
		戸別浄化槽：設置基数	1,254基(H38)	1,068基
		普及啓発活動：水洗化率	99.8%(H38)	98.2%
	情報発信・ お客さまのニーズの把握	環境学習の実施	10回/1年	12回

【実施状況・評価】

- ・公共下水道の人口普及率は98.3%となり、目標を達成しています。
- ・戸別浄化槽の設置基数は1,068基となり、人口及び申請件数の減少により目標値を下回っています。
- ・水洗化率は98.2%となり、目標値を下回っています。
- ・環境学習は小学校への出前講座として毎年継続して実施しており、令和7年度は12回開催し、目標を達成しています。

基本施策：強靱な下水道 基本方針：災害に強い安全・安心な下水道の整備

主要施策	実現方策	業務指標	目標値	実施状況
施設の耐震化	施設の耐震化の推進	管路施設重要7路線耐震化延長	7.0km(H30)	7.0km
		汚水処理施設	—	4/6施設
		雨水ポンプ場	—	2/11施設

【実施状況・評価】

- ・重要7路線について、診断の結果で必要となったマンホール浮上防止等の液状化対策が完了しました。
- ・汚水処理施設の耐震化は、6施設中4施設で耐震化が完了しています。
- ・雨水ポンプ場の耐震化は、11施設中2施設で耐震化が完了しています。

主要施策	実現方策	業務指標	目標値	実施状況
浸水対策	雨水渠等の重点的・集中的な整備	面積整備率	35.8%(H38)	34.7%
	官民一体による雨水流出抑制対策の促進	設置基数	4,727基(H38)	4,324基

【実施状況・評価】

- ・面積整備率について、国費内示率の低迷や雨水調整池改築への重点投資により34.7%と目標値を下回っています。
- ・雨水貯留施設の設置基数について、申請件数の伸び悩みにより4,324基と目標数を下回っています。

主要施策	実現方策	業務指標	目標値	実施状況
防災・減災対策	下水道BCPの強化	継続維持	—	適宜修正
	浸水被害軽減対策	継続維持	—	整備拡充

【実施状況・評価】

- ・下水道BCPに基づく災害時を想定した訓練を実施し、情報伝達体制などの問題点の検証を行っています。
- ・水門遠隔操作システムの拡充を図り、新たに6箇所の整備を行いました。

基本施策：健全な経営 基本方針：健全かつ透明性のある事業運営

主要施策	実現方策	業務指標	目標値	実施状況
経営健全化	持続的な経営	継続維持	—	実施中
	効率的な組織体制の構築	民間活力の活用	—	実施中
		人員の適正配備と人材育成	—	実施中
	エネルギー効率の向上	エネルギーの使用に係る 原単位削減率	原単位 0.1408(H38)	原単位 0.1080 (R6末)
		創エネルギー設備の導入	—	検討中

【実施状況・評価】

- ・原単位の削減について、省エネ設備への改築更新及び運転方法の変更により目標値を大きく上回っています。
- ・創エネルギー設備の導入については、太陽光発電設備や小水力発電設備の導入検討をしまいましたが、施設の耐震性や費用対効果の問題で実現していない状況です。現在は、消化タンクの導入検討を進めています。

主要施策	実現方策	業務指標	目標値	実施状況
事業の効率化	施設の統廃合の検討	継続維持	—	検討中
	下水道全国 データベースの活用	継続維持	—	—

【実施状況・評価】

- ・これまで農業集落排水3処理区について、公共下水道への統合を完了しました。今後も農業集落排水1処理区について、公共下水道への統合に向けた既存管路の不明水調査を実施中です。
- ・データベースの運用が令和7年2月末をもって廃止となりました。

2 現ビジョンの評価を踏まえた課題の整理、実現方策（戦略）の抽出

●課題の整理方法

現ビジョンの取組内容や評価を行う中で表面化した課題の整理・分析については「SWOT分析」を活用しました。

○長野市下水道事業の現状を

- ①内部環境の要因と外部環境の要因に区分し、強み（S）、弱み（W）、機会（O）、脅威（T）に整理
- ②整理した、強み（S）、弱み（W）、機会（O）、脅威（T）を組み合わせたクロス分析を行い、実現方策（戦略）の抽出を検討

SWOT分析

①現状の整理(強み, 弱み, 機会, 脅威)

	強み（S）	弱み（W）
内部環境	目標達成に貢献する組織の特質	目標達成の障害となる組織の特質
人・組織・情報・ノウハウ等	・内部環境による強み	・内部環境による弱み
	機会（O）	脅威（T）
外部環境	目標達成に貢献する外部の特質	目標達成の障害となる外部の特質
法律・制度等	・外部環境による機会	・外部環境による脅威

②クロス分析

	強み（S）	弱み（W）
機会（O）	積極的戦略	段階的戦略
脅威（T）	差別化戦略	自主的戦略

SWOT分析を行い、強みを活かす方法、弱みを克服する方法、機会を利用する方法、脅威を除くまたは防ぐ方法等を考えていきます。

SWOT分析による課題整理 ※ワーキンググループで精査中

7

	強み（S）	弱み（W）
内部環境	㉠ φ600以上の管路の健全度が高い（污水） ㉡ 液状化区域の地震対策が完了している ㉢ 下水道BCPに基づく定期的な訓練を実施している ㉣ 緊急時の直営対応が可能 ㉤ 職員の専門性が高い ㉥ 単独処理場の耐水化が完了 ㉦ ICTの活用による遠隔施設の管理 ㉧ 管路維持管理業者との連携が強い ㉨ 包括的民間委託の導入 ㉩ 水道事業の広域化協議が進行中 ㉪ 単独処理場があるため、見学・視察の受け入れが可能 ㉫ 施設の点検調査・改築・耐震化等の個別計画が策定されている ㉬ 下水道（雨水）以外の排水路（用水路を含む）が多く存在している ㉭ 雨水貯留・浸透施設助成制度	㉠ φ600未満の管路の状態が把握しきれていない（污水） ㉡ 施設の老朽化 ㉢ 計画区域内で整備が見込めないエリアがある ㉣ 戸別浄化槽制度に課題が多い ㉤ 処理場が多く、維持管理負担が大 ㉥ 施設の耐震性能不足 ㉦ 窓口業務の負担が大きい ㉧ GIS機能を最大限に活用できていない ㉨ 処理場内敷地が狭く、新規事業や改築更新が困難 ㉩ 内部留保資金が乏しい ㉪ 経費回収率が100%を下回る見込み ㉫ ベテランの大量退職 ㉬ 職員の採用難 ㉭ 下水道事業の認知度が低い ㉮ 利用者満足度が把握できていない ㉯ φ2000未満の状況が把握できていない（雨水） ㉰ 雨水ポンプ場の耐水性能不足 ㉱ 内水ハザードマップの策定公表が一部排水区のみ ㉲ 水門遠隔操作マニュアル化が一部のみであり、操作方法にバラツキがある ㉳ 老朽家屋所有者・経済的困窮者・高齢者世帯等への早期継続依頼が困難
	機会（O）	脅威（T）
外部環境	㉠ 点検調査に係る国の新たな技術基準が示される ㉡ 国庫補助金・起債の活用・交付税制度優遇 ㉢ 国の推進施策 ㉣ 新技術の開発 ㉤ マンホール人気 ㉥ 教育機関との連携 ㉦ SNSが普及 ㉧ 「流域治水」の考え方に基づき、関係者で水災害対策を推進 ㉨ ゲリラ豪雨被害への地域住民の防災意識の向上	㉠ 事業費の確保（交付交付要件の厳格化、内示率の低迷） ㉡ 人口減少の影響 ㉢ 災害リスクの増 ㉣ 下水道事業に関する市民の関心・理解の低下 ㉤ 老朽化に起因する事故の増加 ㉥ 物価の高騰 ㉦ 人材確保の競争激化 ㉧ 施設の故障リスク

クロス分析による実現方策（戦略）の抽出例 ※ワーキンググループで検討中

	強み（S）	弱み（W）
機 会 （ ○ ）	I 積極的戦略（強み×機会）	II 段階的戦略（弱み×機会）
	施設の耐震化（管路） ㊸×㊵	施設の適正な管理 ㊱×㊴
	組織運営の効率化（DXの推進）（クラウド化） ㊿×㊵	計画的な改築更新（処理場） ㊱×㊴
	連携強化（官民連携） ㊸㊴×㊵	污水处理システムの最適化（分散化） ㊿㊴×㊵
	連携強化（広域化） ㊴×㊵	組織運営の効率化（DXの推進）（窓口の効率化） ㊿㊴×㊵
	浸水対策（雨水渠等の重点的・集中的な整備） ㊿×㊵	エネルギーの創出・有効活用（脱炭素） ㊴×㊴
	浸水対策（雨水流出抑制対策） ㊿×㊴	エネルギーの創出・有効活用（エネルギー効率向上） ㊱×㊴
		市民理解の促進（認知度の向上） ㊿㊴×㊴㊴㊴
		浸水対策（雨水渠等の点検） ㊴×㊵
		防災・減災対策（浸水被害軽減対策） ㊴㊴×㊴㊴
脅 威 （ ㊴ ）	III 差別化戦略（強み×脅威）	IV 自主的戦略（弱み×脅威）
	計画的な改築更新（管路） ㊴×あ	污水处理システムの最適化（集約化） ㊴×い
	防災・減災対策（BCPの強化） ㊿㊴㊴㊴×う	施設の耐震化（処理場） ㊴×う
	市民理解の促進（生涯学習の推進） ㊴×え	健全経営の維持（適正な料金設定） ㊴㊴×いか
	市民理解の促進（施設情報の公開） ㊴×うお	組織運営の効率化（人員） ㊴㊴×いき
		浸水対策（雨水ポンプ場の改築更新と耐震化） ㊱㊴×く
		浸水対策（雨水ポンプ場の耐水化） ㊴×う
		健全経営の維持（水洗促進） ㊴×いか